

## 学生生徒の健康管理に関する調査 (第十二報)

(体育の嫌いな子供の為のキャンプその1)

水 谷 英 三

(緒 言)

「学生生徒の健康管理に関する調査」と題して私は、甲南女子短期大学論叢に第一報より毎年報告してきた。そこで試みた環境衛生についての多角的な調査は基本なものから進んで、“月経に関する面”“運動選手に関する面”“インフルエンザに関する面”“保健管理に関する面”“スキー訓練に関する面”と、体育教育者としてその時々にかかる学校の健康に関する問題を正しく把握しようと試みた。そしてここにその第12報を報告する。多くの人の援助と神の加護により神戸YMCA体育主事古谷武雄、神戸大学体育学部岩田敦と私の三名は“体育の遅れた子供達のキャンプ”と名付けて青野キャンプ場で毎夏開き、今年はその三回目を迎えた。これはその体験より得た資料の一部をもとに若干の考察を試みたものである。

体育の嫌いな子供の為のキャンプ

### 1. はじめに

体育の嫌いな子供はどこにも見られる。どこの学校にも、クラスにも少くとも2～3人はいるであろう。このような子供達は、子供にとって楽しいはずの体育の時間になると、他の子供達が喜びながら一生懸命に活動しているにもかかわらず、校庭の隅やグループの外で小さく孤立していることが多い。彼等は、体が弱い為とか、技術が劣っているためとかの色々な要因によって体育が嫌いになったと思われるが、体育が嫌いだということで、学習に積極

的に参加しないであれば、増々体育が不得手となり、クラスの子供達から、体育の遅れた子供、あるいは、遅進児というレッテルをはられ邪魔者扱いにされたり、グループに受け入れられないようなことも起るであろう。これは体育の学習ばかりでなく、他の学習にも影響するであろうし、グループで活動する喜びを知らない、社会的に適応しない子供に成長してしまう危険がある。

このように体育は、子供の全面的な発達を目指す学習の場であるから、以上の現象については唯単に好き、嫌いだけで片付けられない大きな問題が潜んでいるように思われる。

そこで、同じような体育の嫌いな子供達を集め、同じような能力の子供達のグループを作り、キャンプという特殊な環境で、自然的な環境を生かした学習の場を設定し、いかに消極的な子供でも何の抵抗もなく入っていけるように、心理的な障壁を取除き、進んで体育的活動に参加させて、仲間と共に活動する喜びを体得させると同時に、自分でもやれば出来るのだという自信を得させたいという意図のもとに、私達は過去3回にわたって体育の嫌いな子供達の為の体育キャンプを行ってきた。そして年々参加者も増加し、父兄一般の理解を得るようになった。(第1表)

## 2. 要因の分析

このキャンプは体育の嫌いな子供達を対象にしているため、先づ、何故体育が嫌いになったかという要因の究明が重要なことである。嫌い、不得手、他の学課に比べて嫌い等、色々な問題にぶつかって単に嫌いという点に疑点を感じる事は承知の上で他との相関に於いて展開する為の段階と考えて研究を進めていくことにする。

実験期間 昭和39年8月8日——8月14日

実験場所 兵庫県加西郡加西町都染字平松青野YMC A キャンプ場

被験者 体育が嫌いであると云い、且つキャンプに参加を申し出た49名小学校2年—6年

対象データ 49名中体育の成績5点満点中3点以下の者17名

(第1表) 1964.8.8~8.14 体育キャンププログラム

時間	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	12	11	10	9	8	7	6
8日(土)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	整理	朝食	旗上げ	到着					
9日(日)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	手紙書き	夕食		ゲーム	聖日礼拝	朝食	旗あげ	起床	
10日(月)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	おやつ	夕食		ゲーム	自由	朝食	旗あげ	起床	
11日(火)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	おやつ	夕食	スタンツ	ゲーム	自由	朝食	旗あげ	起床	
12日(水)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	おやつ	夕食		ゲーム	自由	朝食	旗あげ	起床	
13日(木)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	おやつ	夕食		ゲーム	自由	朝食	旗あげ	起床	
14日(金)	就寝	就寝	夕食	夕食	旗上げ	趣味	水泳	夕食	整理	夕食		ゲーム	自由	朝食	旗あげ	起床	

- (注) 1. 体育ゲームの時間はキャンプごとに巡回する。  
 2. 趣味の時間はキャンプごとに選ぶことができる。体育的なもの(Camper)の自主性にまかせろ。  
 3. 全体で行うゲームは各夜のプログラムと12日のインデンイアン水泳カーニバル

## 検査測定内容

- (1) 家庭環境調査 (質問紙法)
- (2) 身体的能力検査
  - ① 形態計測 (運動能力検査, 体力診断テスト)
  - ② スポーツテスト
- (3) 田中B式知能検査, 知的能力検査
- (4) 性格検査 矢田部ギルフォード性格検査

以上の結果より, 個人個人のカルテを作製し, それにもとづいて, 1つのグループに2名のカウンセラーをつけ, キャンプ中の生活記録, 及び指導を適切に行なった。(第2表) (第3表)

## (第2表)

## 1 体育キャンプ アンケート (1)

下記の問のうち適当な答に○印をおつけ下さい。

1. あなたの住んでおられるところは  
住宅街 工場街 商店街 田園 その他 ( )
2. 子供の主な遊び場所は  
屋内 屋外 両方
3. 主な屋外での遊び場所は  
路地 公園 庭 その他 ( )
4. 遊び友達の数は  
なし 一人 二人 三人 それ以上
5. 水泳の程度は  
うかない うくだけ 水がこわい 1m程度 5m程度  
10m以上
6. 学校における体育の成績  
5 4 3 2 1

7. インディアンキャンプに参加するようになった動機
- 主に両親がすすめた
  - 子供が行きたいといった
  - 学校の先生にすすめられた
  - その他( )
8. 御両親からのキャンプに対する御希望があればお書き下さい。

(第3表)

2 体育キャンプ アンケート (2)

キャンプの指導を少しでも効果的にするため、更に次の各項目について調査を行ないたいと存じます。お手数でも各項目に御記入頂いて父兄面接日に御持参下さいませようお願いします(本人には秘密にして下さい)

氏名 \_\_\_\_\_

A 本人について (該当する項に印を記入して下さい)

イ (1)母乳で育った (2)人工乳で育った (3)その他

ロ 現在の身体の発育或いは性格に影響を与えるような病気を過去にしたことがありますか。

(1)ある \_\_\_\_\_ 才頃 病名 \_\_\_\_\_ (2)ない

ハ 身体について

(1)病気をしがちである (2)丈夫である (3)その他

ニ 赤ちゃんの時、手がかかりましたか

(1)かからなかった (2)かかった 理由

ホ 勉強態度

(1)注意しなくても自分でよくする (2)普通

(3)注意すればやる (4)注意してもやらない (5)すぐあきる

ヘ 友達との仲

(1)非常に仲がよい (2)よくケンカする (3)その他

ト 性格について

- |   |   |             |   |   |          |
|---|---|-------------|---|---|----------|
| 1 | { | いつも元気でほがらか  | 2 | { | 神経質である   |
|   |   | 〃 淋しそうにしている |   |   | のんびりしている |
| 3 | { | 内気である       | 4 | { | 素直である    |
|   |   | 活発である       |   |   | 素直でない    |

体育を嫌いになった要因を多方面にわたって調査した結果、その要因とみられる特長を概略的に述べることにする。

先ず、直接的な原因は、17名の体育の評価が、3点のものが1名、あとは2点か1点であることから、体育授業中のいろいろの活動が不得手であり、できないためであろう。しかし体育の評価から直ちに、その原因と推測決定することは危険である。身体的能力検査において、形態、運動能力、体力の3つの側面より検査した限りでは、形態的には、2、3の者を除いて、殆んど全国平均よりも優れているが、(昭和38年度文部省資料と比較)運動能力、体力については平均以下の者が多く、基礎的な筋力や柔軟度では大して差は見られないけれども、或程度スキルを要する運動能力について劣っている傾向がみられる。(昭和32年の資料の一部)中でも、ドリブル走や連続さか上りなどが特に劣っている。(第4表)(第5表)

(第4表)

年令	番号	身長	上肢長	下肢長	体重(大)	胸囲(大)	胸囲(小)	腹囲	上腿屈(屈)	上腿伸(伸)	大腿屈	大腿伸	肺活量	I・Q
7	1 T.M.	133.0	55	77	34.2	77	70	60	24	21	42	29	1578.4 1.480	101
8	2 Y.T.	123.2	51	72.2	20.8	58	57	48	16	14	31.5	23	1.520 1727.4	93
9	3 N.M.	131.4	54.8	76.8	25.0	66	60	51	18.5	17.0	30.5	25.5	1.480	113
9	4 S.F.	134.6	53.2	77.1	29.4	69	66	54	20.0	17.0	33.0	28.0	2.280	120
9	5 Y.N.	129.0	51.8	74.4	24.3	64	61	63	17.5	16.0	31.5	24.0	1.560	116
9	6 T.O.	131.4	55.9	80.2	26.0	62	62	51	18.0	16.0	33.0	25.0	1.760	85
9	7 M.H.	136.7	54.8	78.1	30.6	70	67	54	20	18	38	27	2.100 1902.9	142
10	8 D.Y.	135.4	55.9	79.6	27.6	66	61	52	19	17	36	25.5	1.840 2125.8	104
11	9 K.A.	140.8	57.4	82.3	31.3	67	64	56	19.5	17.0	37.0	28.0	2.180	94
11	10 K.O.	155.5	63.1	91.6	51.2	81	78	73	26.5	25.0	45.0	35.0	2.200	100
11	11 H.O.	135.9	59.0	79.9	31.2	71	68	54	20.0	17.0	32.0	27.5	2.120	108
11	12 H.M.	142.2	57.0	97.4	43	79	76	70	24.0	22.5	43.0	34.0	2.080	94
11	13 T.M.	147.4	61.8	88.4	36	71	68	58	21.5	19.0	38.0	27.5	2.220	105
11	14 Y.N.	137.8	57.2	80.1	25.2	60	58	45	17.0	15.0	30.0	24.5	1.300	62
8	15 M.O.	126.9	52.2	71.1	25.2	63	61	50	19	18.5	35.5	27	1319.7 1.130	106
10	16 N.T.	127.6	50.2	73.6	21.6	58	56	46	16	15	34	24.7	1658.6 1.280	122
12	17 M.S.	139.4	58	83.6	30.2	66	62	52	20	18.6	37	32	1994.0 1.320	113

(第5表)

年令	氏名	10m走	走巾跳	ソールト投げ	懸垂	ドリプル	走リ	連続さか	上り	反復横と	垂直とび	背筋力	握力	上し	体前屈	踏台昇降
7	1 T.M.	10.9	184	14	10	42.8	0	28	15	61	15	42	3	54.9		
		10.0		18.8						23	45.9	14.4				
8	2 Y.T.	11.0	227	11	16	39	0	29	23	32	13	36	4	55.2		
									25.1	55.1	16.3					
9	3 N.M.	9.4	263	21	32	74.2	0	40	26	62	18	35	0	55.2		
									25.1							
9	4 S.F.	11.4	211	9	7	73	2	29	25	68	19	47	-5	70.9		
									25.1							
9	5 Y.N.	11.2	216	15	10	46.0	0	42	25	45	11	47	-1	52.9		
9	6 T.O.								/	25	58	14	39	-6	/	
9	7 M.H.	9.4	236	21	32	28.3	0	35	26	50	17	51	7	54.5		
		9.4		24.7					27.8	62.3	17.5					
10	8 D.Y.	9.9	253	15	14	33.7	0	38	28	55	15	39	8	43.3		
									31.1	71.5	20.1					
11	9 K.A.	9.5	230	16.9	11	26.3	0	37	32	65	18	37	8	60.4		
									31.1							
11	10 K.O.	10.0	266	33.0	6	20	0	36	32	82	21	50	-9	55.2		
11	11 H.O.	9.0	278	19.0	11	23.0	0	34	30	75	16	51	4	54.9		
11	12 H.M.	10.4	262	12.5	7	35.2	0	32	34	61	21	50	1	53.3		
11	13 T.M.	10.2	251	23.0	25	30.1	3	38	30	75	26	47	0	66.7		
11	14 Y.N.	13.8	153	5.5	4	43	0	21	23	43	10	42	-3	46.4		
		10.5		10.2						20.8	35.9	12.1				
8	15 M.O.	11.8	202	7	24	47.9	0	29	17	35	11	43	4	59.6		
		9.8		14.7					25.2	47.3	15.3					
10	16 N.T.	10.4	217	12	27	28.2	3	33	24	35	11	47	1	54.9		
		9.2		20.3					29.9	59.3	21.9					
12	17 M.S.	10.0	262	13	33	28.6	2	37	33	50	18	44	16	51.1		

### 3. 調査の結果

#### 1. 健康について

身体的健康度をみるために過去の疾病、及び現在の健康状態を質問紙法により保護者に質問したところ、次のようになった

扁桃腺炎 9

中耳炎	6	風邪にかかりやすい	12
虫様突起炎	4	皮ふが弱い	5
肺炎	1		
百日ぜき	1		
ぜんそく	1		
小児マヒ	1		

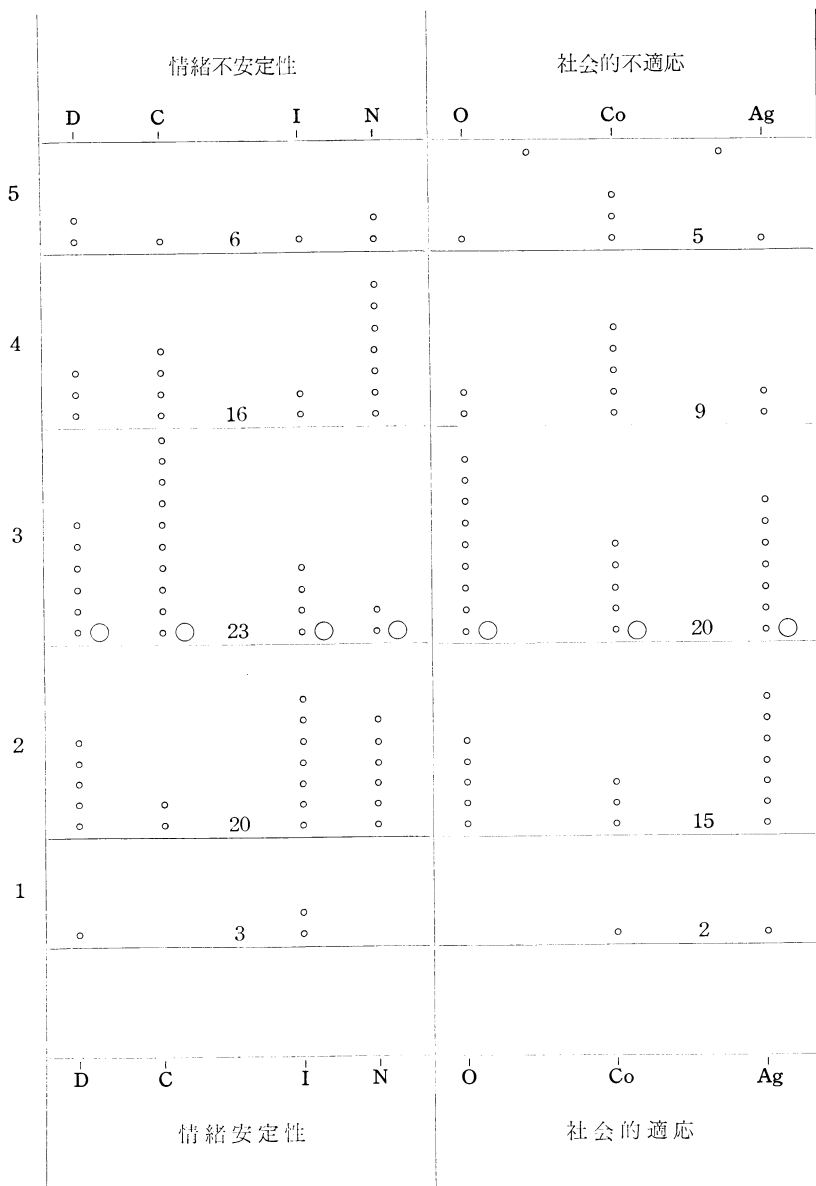
へんとうせん炎，中耳炎が圧倒的に多く，中には，へんとうせん炎，中耳炎の両方の疾病を患っている者が，2，3見られた。これは身体的な病気というよりも，むしろ精神的原因によって形成された体質ではないだろうか。このことは現在の健康状態が良好ではあるにもかかわらず，非常に風邪をひきやすく，皮膚が弱いという神経質な傾向が見られることからいえる。このために学習活動に対して，性格的に，精神的に参加できないので，一層学習の効果を阻害することになると思われる。

では性格的にどうであろうか。矢田部，ギルフォード性格検査の結果では，半数以上が安定，又は不安定の消極型で，特に一次因子尺度群中，非活動的で，内向性であるという特長を得た。そして，家庭での遊び場が割合屋内に多く，屋外でも，家かと，路地のように，非活動的な場所を選んでいる。しかも遊び友達が全然いないで一人あそびするものが5名もいる。公園，遊園地などの，子どもがのびのびと遊ぶ場所のない現在ではやむを得ないことかも知れないが，家の中で一人遊びをする子どもが少なくないことは大きな問題であろう。このように，非活動的な，内向的な子どもにどうしてなったのか更に考えてみる必要がある。（第6表）

一般に知能のおくれは内向的な性格となるといわれる。しかし，田中B式知能検査の結果では，中以下の者は3名，残りは中以上で，むしろ優れている者が多い，とすると，今迄に至る育て方に問題があったのではなからうか。（第7表）



(第6表)



活動性			外向性	
R	G	T	A	S
○	6		○	1
○	21	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○	18	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	4	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
○ ○		○ ○	○	3
R	G	T	A	S
非活動性			内向性	

(第7表)

	1 S	SS	1 G	1 Q	MA	年 令
(1)	1 3 8	5 1	中	1 0 1	8.5	7.10
(2)	1 3 4	4 3	中 下	9 3	8.3	8.11
(3)	1 0 5	5 9	中 上	1 1 3	11.2	9.10
(4)	1 1 3	6 4	中 上	1 2 0	11.10	9.10
(5)	1 0 2	6 1	中 上	1 1 6	10.11	9.5
(6)	6 4	3 9	中 下	8 5	7.10	9.5
(7)	1 3 0	7 9	最 優	1 4 2	13.2	9.4
(8)	1 0 2	5 3	中	1 0 4	10.11	10.5
(9)	1 0 7	4 6	中	9 4	11.4	12.3
(10)	1 1 1	5 0	中	1 0 0	11.8	11.9
(11)	1 2 1	5 5	中 上	1 0 8	12.6	11.6
(12)	1 0 5	4 6	中	9 4	11.2	12.0
(13)	1 1 8	5 3	中 上	1 0 5	12.3	11.9
(14)	5 4	2 6	劣	6 2	7.0	11.8
(15)	1 5 6	5 6	中 上	1 0 6	9.1	8.7
(16)	1 2 2	6 4	中 上	1 2 2	12.7	10.5
(17)	1 3 8	5 8	中 上	1 1 3	13.10	12.3
最 優	1					
優	0					
中 上	8					
中	5					
中 下	2					
劣	1					

家庭環境，生活歴を調べてみると，17名のうち5名がおぢいちゃん，おばあちゃんのいる家庭であり，3名が兄弟のいないひとり子である。また兄弟がいても1人が7名でこの7名がすべて長男，長女である。そして子どもの体育を嫌いになった理由として，父兄はどのように考えるか，の質問に対して，病気，からだが弱い。ひとり子，おばあちゃん子の違いはあるが，殆んどかまい過ぎ，かわいがり過ぎという結果を得ている。

## 親が子供に対する態度

体質が弱い	2
1 人 子	2
かまい過ぎ	3
発 育 不 良	1
おばあちゃん子	4
家 庭 環 境	4
病 気	1

子ども最ものびのびと活動したい幼児期に，親が子どもの行動すべてに気をつけ，自分のそばでいつも活動するようにして，子どもが何か問題にぶつかったときでも，いつでも親が解決してしまうような，保護過剰，又は溺愛が子どもの大人に対する依存傾向を強くし，

自己中心的に物事を考えるようになり，そのため友人同志では遊べず，一人遊びや，精神的活動に逃避するようになったのではなかろうか。

## 生活態度

## 遊 び 場

友 人		屋 内	7
な し		屋 外	0
2 人	5	屋内屋外両方	10
3 人	6		
それ以上	1		

又友達と活発に遊ばないために，社会的な人間関係の経験も少なく，その上，体育的活動の基礎である遊びの経験が少いために，周囲からとり残さ

れ、より一層、内向的、消極的な性格になってしまったのではないであろうか。

家族構成（兄弟の数）

0 人 3

1 人 7

2 人 1

3 人 2

4 人 4

祖父・祖母 5

羨

きびしい 3

普通 5

きびしくない 9

育て方

甘やかしている 10

普通 4

甘やかさない 3

体育活動の理解

理解がある 7

普通 2

理解ない 8

以上のような、検査、測定によって、体育を嫌いになった要因を究明して来たのであるが、その要因は複雑であり、明らかになったのは、ほんの表面的な事象に過ぎないと思われる。しかし、このキャンプの目的は要因の究明よりも、体育を好み、友達と楽しく活動できるように指導することである。よくいわれるように、診断と指導は密接なつながりをもったものでなければならぬ。その意味において、明らかにされた診断の結果に従って適切に指導することが必要である。（第8表）

(第8表) 参考資料 体育キャンプ 側定資料

○印 男子注意者  
△印 女子注意者

インディアンレースタイム					体 重						水 泳			
第1テント	学年	8月 10日	8月 11日	8月 12日	8月 13日	8月 9日	8月 10日	8月 11日	8月 12日	8月 13日	8月 14日			
○	Y. T.	3	49.8	58.2	49.5	46.4	20.9	21.8	21.2	21.5	22.2	21.7	0m	
	H. Y.	2	52.3	49.2	52.1	44.5	29.7	29.8	29.2	29.3	30.0	29.2	0m	
	○	T. M.	2	52.2	55.5		54.0	23.0	23.0	23.2	23.5	23.8	23.3	0m
		K. M.	3	47.8	47.0	44.4	42.5	35.4	35.0	35.4	36.0	35.2	34.5	1m
	Y. Y.	3	49.4	52.0	45.6	44.6	22.0	22.0	21.7	22.2	22.3	21.6	0~2m	
第2テント														
△	M. K.	3	56.0	57.6	53.8	58.1	24.9	24.8	23.9	23.9	24.9	25.8	0m	
	J. I.	3	55.4	105.1	51.0	51.2	22.1	22.3	21.8	22.0	22.7	23.0	0m	
	S. O.	2	60.0	52.8	51.4		21.0	21.2	20.6	20.6	20.4	22.0	0m	
	M. W.	3	50.1	47.4	45.4	49.5	22.0	22.0	22.0	22.1	22.3	22.0	0m	
	M. T.	2	59.4	55.6	56.3	57.5	18.7	18.6	18.7	18.8	18.9	19.8	0m	
	K. M.	4	42.3	38.5	39.6	41.5	28.0	28.4	28.4	28.5	28.6	29.0	1m	
	Y. A.	4	47.2	43.0	44.0	41.0	25.4	25.3	25.3	25.3	25.4	26.2	15m	
	第3テント													
	○	Y. N.	4	62.6	59.8	56.0	53.1	24.0	24.0	24.2	24.4	24.6	24.2	0~3m
T. I.		4	37.5	37.0	34.5	32.0	28.0	27.8	27.4	28.0	28.0	27.7	5m	
○	N. M.	4	47.7	44.3	38.0	37.0	25.9	26.0	25.6	25.4	26.2	25.7	5m	
	Y. S.	4	41.0	40.6	41.5	40.1	25.6	25.7	25.6	25.9	26.0	25.7	2m	
○	T. F.	4	43.0	46.2	43.5	41.9	30.0	30.2	29.8	30.4	30.0	29.4	10m	
	T. O.	4					27.4	27.0	26.3	26.2	26.4	25.6	2~3m	
○	K. M.	4	41.6	41.3	42.5	39.6	24.0	23.9	24.0	24.0	23.8	23.9	5~10m	
	S. F.	4	41.7	42.4	41.8	38.5	22.6	22.6	22.4	22.6	22.8	22.5	5~10m	
	Y. S.	4	51.1	46.4	46.4	44.8	34.0	33.8	33.8	34.2	33.5	33.4	1~4m	
○	M. H.	4	43.8	43.6	42.2	38.8	30.8	30.8	30.5	30.9	30.8	30.6	5~10m	
○	S. F.	4	60.5	60.6	46.6	41.2	29.2	29.2	28.8	29.5	29.3	28.7	0m	
第4テント														
○	T. Y.	5	45.0	38.4	39.4	42.4							5~10m	
	H. I.	5	51.0	43.1	45.1	39.4							15m	
	E. T.	5	49.9	37.0	37.6	35.1								
	H. M.	5	41.5	35.6	36.4	33.8							10m	
	T. Y.	5	37.9	39.1	40.2	35.0							5m	
	M. O.	5	40.0	35.0	37.2	33.6							20m	

○ O. Y.	5	46.3	47.2	48.2	38.4	27.0	27.0	26.4	26.2	26.6	26.8	5m
M. S.	5	44.0	39.5	37.6	36.8							0~2m
H. F.	5	39.6	34.1	32.1	33.4	29.6	29.4	29.3	28.7	29.5	29.4	10m
第5テント												
M. G.	5	47.1	44.0	43.4	38.5	30.8	30.9	30.4	30.4	30.4	30.6	10m
M. F.	5											0m
△ N. T.	5	61.1	56.2	55.0	54.4	22.6	22.0	22.2	22.2	22.2	22.3	0m
△ M. S.	6	46.3	38.4	43.8	36.3	30.4	30.4	30.6	30.6	30.6	30.7	15m
第6テント												
○ Y. N.	6	110.5	109.0	115.0	56.6	25.2	25.4	25.7	25.8	25.6	25.8	0m
○ H. M.	6	52.0	50.4	48.9	46.8	43.5	43.5	43.0	42.9	42.9	42.4	0m
○ H. K.	6	40.4	35.6	40.2	39.0	31.2	31.0	31.0	31.6	32.0	31.0	5m
○ K. A.	6	48.0	44.9	41.3	44.6	32.0	31.8	31.8	32.1	32.2	31.7	10m
○ K. O.	6	46.0	42.4	45.0	44.7	51.2	51.0	50.8	51.2	51.5	50.9	5m
I. S.	6	35.4	33.3	32.7	32.7	36.0	36.2	35.8	36.5	36.7	36.0	5m
A. F.	6	35.5	34.2	35.2	31.4	31.0	31.2	31.5	32.0	31.2	31.2	0~5m
○ T. M.	6	37.8	35.6	36.0	35.3	36.4	35.8	31.0	36.5	36.6	35.5	5m
M. N.	6	36.4	36.3	37.0	38.0	32.4	32.2	32.2	32.8	32.9	32.3	5m
S. F.	6	34.4	30.7	34.5	35.2	28.0	27.8	28.0	28.0	28.0	28.1	10m
M. T.	6	39.0	35.7	34.2	34.3	34.2	34.4	34.7	34.0	34.0	34.0	10m
Y. K.	6		35.7	36.5								
S. N.	6	39.6	37.1	37.1	36.5	46.0	45.6	45.5	46.0	46.7	45.6	10m

## 4. 総括

日本体育学会における報告である第10報「スキー訓練に関する一考察その一」に続き甲南女子短大論叢第7号にその二を報告した。学生生徒に関する健康管理調査報告も、児童を対象とした研究に迄手をのばしここに第12報を数えるに至った。我々はこの地味なる研究こそ体育教師として最も必要なる事と信じ、健康管理調査をあらゆる面において、多角面に続けて行くべきだと思う。

○第1報	基本調査		昭和30年
○第2報	月経と体育授業について		"
第3報	環境調査		昭和31年
○第4報	性格と月経について		"
○第5報	Personality と運動選手について		昭和32年
○第6報	インフルエンザと学級閉鎖について		昭和33年
第7報	休養室の利用と学校保健面から見たその対策		昭和34年
○第8報	保健管理と本校休養室利用度		昭和35年
第9報	インフルエンザ対策		昭和37年
○第10報	スキー訓練に関する一考察	その一	昭和38年
○第11報	"	その二	昭和39年

○印日本体育学会報告論文

## 参考文献

学生生徒の健康管理に関する調査	第10報, 第11報
新教育統計法	岩原信九郎
体育測定法	松井 三雄
スポーツテスト	文 部 省
日本民事新報	1 7 4 0 号
健康教育	第88~97集
体育学研究	第4巻 3号 1959